Japan Evangelical Theological Society

日本福音主義神学会

J·E·T·S·NEWS Vol.19

発行所/〒270-13千葉県印旛郡印西町内野3丁目301-5-1東京基督神学校内

世紀の終わり——神学会のパースペクティブ

全国理事長　橋本昭夫

二世紀の終わりは、いずれの時にも歴史を感じさせられる。そして私たちの世紀末は、新しい千年紀への変わり目であるとき、歴史の流れはいやがうえにも意識の全面に上る。先の千年紀の変わり目に何が胎動していたのか、ついそのような想像に心が動く。西方ヨーロッパの教会史を振り返ると、新しい教会の時代への備えが積み重ねられていたように思われる。九一〇年に、フランスのクリュニー修道院が創設されている。かの時、教会は王侯の権威のもとにあり、それゆえに世俗化の一途を余儀なくされていた。そんな中で、教会の自律性を回復し、世界に対する教会の使命を鮮明にしたのが、このベネディクト派の修道会であった。確かに、その後の教会の流れは、宗教改革を必然化するものであり、歴史の中にある教会の苦悩を見るのであるが、先の千年紀の変わり目には、後のグレゴリウス七世やウルバン二世を輩出する土壌が備えられつつあった。いずれも世界への教会の使命を強く自覚していた。

一九七〇年に創立された、日本福音主義神学会は、新しい千年紀の日本の宣教に、さらに世界宣教にどのような歴史的な意味を持っているのであろうか。あるいは、このような歴史的パースペクティブにおいて、私たちの小さな神学会を見るのは、一つの「大風呂敷」に過ぎないのであろうか。「石ころからでもアブラハムの子を起こす」ことのできる主なる神のみこころによって生まれたこの神学会も、むしろ、歴史の主なる神のみわざのスケールのもとに、そのミッションをとらえていかねばならないのではないか。

世紀末の現代、世界は、かつては「西欧」の、そして今は「欧米」の、思想的優位のもとに否応なく組み込まれている。そして、人間の可能性にかけてきた近代の歩みの結末である閉鎖状況に引き込まれている。新しい価値の秩序を求めて東洋の伝統を見直そうとする動きもあるが、神を無視した人間の状況には、いずれにおいても出口のないことを聖書から洞察する者にとっては、「東洋」が西洋にまさる選択であるとはにわかに受け入れることができない。

人は、共同体としても、個人的実存としても、何によって生きるのか。「生ける水の源」であるイスラエルの神、主イエス・キリストの父なる神の、救いの呼びかけに応え、立ち返ること以外にはない。現代は、ほとんど「すべてを得た」。しかし、人の最奥の求め・魂の求めを真に満たすものから遠ざかっている。「福音主義の信仰を、この世の現実に関わらせて、現代における生きた関連性のもとに把握する」ことを求めてきた福音主義神学会のこれからの使命も大きいと言わなければならない。

折しも、第八回全国研究会議が、震災の町・神戸で、この一一月二五日～二七日にかけて、「宗教」をテーマに開かれようとしている。主題の核は、「今日の宗教性の混乱と宣教の責務」である。飢えを覚え渇きにさいなまれる多くの魂の求めに乗じて「自分を養おう」とする似て非なる「預言者」があふれている。世界に、人に、魂の神への渇きの由来を知らせ、いのちで潤すお方のよきおとずれをどう伝えるか、会員の熱心な参加が期待される。主題は、神学会の今後の使命を暗示している。

各地区部会報告

東部部会

一、理事会報告　於OCC

◇一九九五年一〇月六日

▽秋の研究会の準備報告。

▽野口良哉氏、二神一人（ふたがみかずと）氏を正会員として迎える。

◇一九九六年三月一五日

▽総会、および春の研究会の準備報告。

▽山口昇氏が西部へ転部。

▽福井誠氏、堀川寛氏を正会員として迎える。堀川氏は広島在住のため、西部へ転部。

二、研究会

◇九五年秋期研究会「戦後五〇年のキリスト者の課題」（棚瀬多喜雄氏、井上圭典（けいすけ）氏）。

◇九五年春期研究会「福音的カウンセリングの本質と限界」（小助川次雄氏、柿谷正期氏）

◇部門別研究会

・聖書部門（一月二二日）
小林高徳氏、依田泉氏

・実践神学部門「平和講演会」に賛助し、戦後五〇年の戦責問題に関する声明文を他と協力して出した。

三、第二七回総会

九五年五月二七日　於OCC

◇理事会構成

▽役員理事
理事長・佐布正義。副理事長・大滝信也。会計・藤原導夫。書記・藤本満。

▽学会誌担当理事　木内伸嘉
藤本満

▽部門理事
一般学　沼慎二・東條隆進
聖書学　津村俊夫・内田和彦
歴史神学　横山武
組織神学　伊藤淑美
実践神学　金本悟・倉沢正則

――現在会員数二二一名。

中部部会

一、理事会

◇九五年六月二六日、一一月六日、九六年二月一九日

二、第一五回総会

九六年五月一三日

▽九六年度理事会構成
理事長　水上勲
書記　安村仁志
会計　松浦剛
学会誌　隅上正敏
理事　黒川雄三・西堀則男
塚本恵氏、友納徳治氏、東中善彦氏、ミッチェル・ザニア氏、森文彦氏。（準会員）藤井正也氏、袴田康裕氏、村岡三奈子氏。

▽退会　織田昭氏

▽転入　山口昇氏、竹内茂夫氏
堀川寛氏、服部尚氏

▽転出　小川国光氏（東部へ）

――現在、会員数一六七名（正会員一四一名、準会員五名）

二、研究会

◇春期研究会（九五年四月一五日　於・神戸ルーテル神学校）
「聖書解釈の実際」

▽組織神学部門

・塚本恵「ニュッサのグレゴリウスの神秘主義」

・袴田康裕「カルヴァンとフマニスムス」

・正木牧人「初期キリシタンでのカテキズムの役割」

▽聖書神学部門

・森文彦「コプト語聖書sahidicの本文学的意義」

・服部尚「キリストを通しての聖書の契約の成就」

・岡山英雄「獣の国の構造・黙示録と荒野の誘惑」

▽実践神学部門

三、研究会

◇秋期研究会
九五年一一月八日（於・金山キリスト教会）
井上二郎氏「信教の自由が守られるために――教会の課題」

◇九六年春期公開講演会（於・金山キリスト教会）
渡辺信夫氏「教会の戦争責任と今後の展望」

四、会員異動

入会　渡辺睦夫氏、服部尚氏、丸山悟司氏

退会　高畠敏充氏

転出　山崎光吾氏（東部へ）

――現在会員数三八名

西部部会

一、理事会報告

◇一九九五年九月四日、神戸改革派神学校。一九九五年一一月二七日、大阪キリスト教短期大学。一九九五年一二月二六日、橋本昭夫理事長宅。一九九六年四月一五日、神戸ルーテル神学校。一九九六年七月二九日、同校。

◇会員異動

▽入会　井草晋一氏、土村忠美氏、大塚篤氏、滝谷良一氏、

・重富勝巳「『ボランティア論』の聖書的一視点」
・福田充男「日本に文脈化された教会イメージ『とらや』」
・津村春英「河辺貞吉、人と思想」
・芦田昌憲「改革者ルターと教育」

◇秋期研究会（一一月二七日）於・大阪キリスト教短期大学
▽全体講演
「今、第三の波を考える」
有賀喜一氏、内田和彦氏
▽組織歴史神学部門
・泥谷逸郎「ラ・ロシェル信仰告白について」
・大塚篤「バックストンの教会観」
▽実践神学部門
・福田充男「『点と系』の時代の宣教方策」
・井草晋一「第二宗教改革と教会形成」
▽聖書神学部門
・宮崎茂「詩篇におけるワウの味わい方」
・津村春英「ルカ神学の律法理解をめぐって」

三、九六年度理事会構成
理事長・橋本昭夫。書記・滝浦滋。会計・鷹取祐成。学会誌・石黒則年
▽理事　市川康則・勝原忠明　鎌野善三・工藤弘雄　津村春英・福田充男　牧田吉和・真鍋　孝

全国理事会

とき　一九九六年六月二日
ところ　日本イエス　名古屋教会
出席　東部　佐布正義、木内伸嘉
中部　水上勲、松浦剛
西部　橋本昭夫、鷹取裕成
滝浦滋
▽全国理事長（佐布氏）の二年任期満了に伴い、西部理事長の橋本昭夫氏が全国理事長に選任。
▽全国書記として、滝浦滋、藤本満の両氏を選任。
▽全国会計に、鷹取裕成氏を選任。
一、三部会から活動状況の報告。
二、木内氏より学会誌の報告がなされ、承認。（下記欄参照）
三、鷹取氏より全国会計の報告がなされ、承認。（次頁参照）
四、第八回全国研究会議のコーディネーターより準備報告を受けた（真鍋氏・市川氏・石黒氏）。
▽参加奨励のため、西部五〇名、中部二〇名、東部三〇名が祈られる。

学会誌報告

一、学会誌編集委員
東部　木内伸嘉
藤本満（補佐）
中部　隅上正敏
西部　石黒則年
顧問　鍋谷堯爾
二、二六号『戦後日本の教会』には講演一点、主論文二点、書評二点、懸賞論文一点を掲載した。
DTPの導入により、論文はワープロ形式で提出されることが求められる。
三、本年度二七号『戦争』
◇論文執筆者
・佐々木哲夫「旧約聖書に関する研究小史」
・遠藤嘉信「十戒における『殺してはならない』の意味」
・井上圭典「アジア侵略―近代日本の言論人・政治家等のアジア観」
・油井義昭「日本の教会の戦前・戦中の歩み」――国家神道の圧制のもとで
●懸賞論文募集中
●会員各位の業績報告受け付け中
至急　学会誌委員の石黒まで。

第８回全国研究会議

●1996年11月25日(月)～27日(水)
●シーパル須磨（神戸市須磨）

会計報告

福音主義神学会（全国会計）

一九九五年度決算報告ならびに一九九六年度予算

収入		
項目	1995年度決算	1996年度予算
東部負担金	600,000	600,000
中部負担金	120,000	120,000
〃（前年度分）	120,000	
西部負担金	450,000	450,000
学会誌売上	150,000	200,000
広告収入	160,000	350,000
献金	0	0
雑収入	0	0
小計	1,600,000	1,720,000
前期繰越金	−374,335	−212,758
合計	1,225,665	1,507,242

支出		
項目	1995年度決算	1996年度予算
学会誌会計	(1,204,060)	1,300,000
理事会費	109,052	84,462
事務通信費	1,961	10,000
研究助成費	50,000	50,000
JETS費	73,350	70,000
名簿印刷費	0	100,000
予備費	0	0
小計	1,438,423	1,614,462
次期繰越金	−212,758	−107,220
合計	1,225,665	1,507,242

出版基金会計　1995年度決算報告

収入		支出	
全国会計から	0	学会誌会計繰り入れ	100,000
前期繰越	808,421	次期繰越	708,421
合計	808,421	合計	808,421

第八回全国研究会議

「今日の宗教混乱と宣教の責務
――真の宗教性回復のために」

昨年の大震災および凶悪犯罪化してしまった近年のオウム真理教が日本の社会と宗教界に与えた負のインパクトは予想以上に大きい。このような混乱の中で、創造者なる真の神と、その啓示された書を知り、保持しているものとして、キリスト者、特に教会の指導者に期待されている役割はさらに大きい。

◇「聖書における人間の宗教性」丸山忠孝、応答　滝谷良一

◇「教会と宣教における人間の宗教性」勝原忠明、応答　藤本満

◇「カルトにおける人間の宗教性」中沢啓介、応答　川口一彦

◇「日本社会における人間の宗教性」村田充八、応答　金本悟

●申し込み締切　一〇月一五日
　所定のハガキにて

●問い合わせ先
第八回全国研究会議事務局
〒615神戸市中央区中島通2・3・5
神戸ルーテル神学校気付け

日本福音主義神学会ニュース
一九九六年一〇月一日発行
発行　日本福音主義神学会
編集　藤本　満
印刷　三好印刷